

# ポジティブ・アクション

## 同じスタートラインに立っていますか？

「同じ実力があっても、置かれた環境や慣習でチャンスに差が出てしまう」。今の社会には、これまでの慣習や思い込みなど、個人の努力だけでは超えられない「目に見えない壁」がまだ残っています。

ポジティブ・アクションとは、その壁によってチャンスを掴めずにいる人たちに対して、「実力があるのに届かなかった機会」を、一定の範囲で講じる暫定的な措置です。

## ■ なぜ「ポジティブ・アクション」が必要なの？

### 女性の社会参画が遅れている

日本の女性参画は少しずつ進んでいますが、世界に比べるとその歩みは緩やかで、差はむしろ開いています。

これまでの慣習をただ続けるだけでは、解決に長い時間がかかってしまいます。だからこそ「必要な範囲で」効果的な対策を行い、変化を加速させることが求められています。

『いつか』を待っているうちに、人生が終わっちゃう…



同じルールで競っているつもりでも、スタートラインが違うこともあるのか…



### 見えないハードルを取り除く

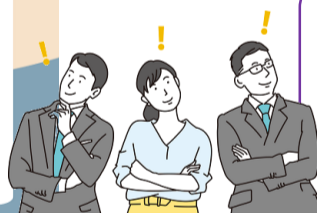
「家事は女性、仕事は男性」といった根強い思い込みや、個人の努力だけでは超えられない社会の壁がまだあります。その壁を壊し、誰もが同じスタートラインに立てるようにします。

「同じ視点」だけでは、新しい価値は生まれない  
多様な立場の人が意思決定に加わることは、単なる数合わせではありません。

政治や行政に「より多くの人の声」が届くようになり、企業では「新しいアイデア」や「強さ」が生まれます。

いろんな意見がぶつかるほうが、結果的にいい答えにたどりつける！

視点が混ざり合っ初めて、『次の形』に進化できるのだと思う



## ■ どのような取り組みをしたら良いの？

例えば…

### ○意思決定の場を「多様」にする

特定の層に偏らない議論の場を作るためのルール作り。

#### ・会議・委員会の比率設定

審議会や社内の意思決定機関において、男女いずれかの割合が40%を下回らないように努める。

#### ・候補者リストの多様化

役員や管理職の候補者を選定する際、必ず男女両方の候補者をリストに含める。

#### ・発言機会の平等化

若手や多様な属性のメンバーが意見を出しやすい会議運営（ファシリテーション）の導入。

